

位中弁佐忠上

康保二年史清明官掌未進之間仰召史生仍罰大弁以下又檢非違使隨身懸胡簾者入來依無先例

同罰略中

九條○輔藤原 天慶八年尊者机四脚主人座西面座後東方立机南北爲妻仰錄事後一世源氏机令

立南簾子敷卽令著源氏勸益座疊自始敷也承平二年依无孫廟設一世源氏座

天曆七年左大臣家賴實饗頃之遣史生錄事下官起座勸益至于尊者事訖可勸然而依家禮也

初任饗設庇著座後立机尊者橫座益後著納言座南上垣下親王座對公卿史生饗於便所給之給祿時召庭前天曆七年史生饗設政不羞餽飪無立作幄并史座錄事如常六位外記史給疎自餘如例其太政大臣饗猶用樣器故實新任饗隨時節寒暖設湯漬水飯等不必仰

〔年中行事秘抄正月〕大饗日主人不出客亭例見九條殿御記并外記記

李部王記云承平六年正月四日詣左大臣家忠平藤原饗所主公稱病不出語曰近日雖更廢不能束帶

仍令外記勘先例舊記口損先例頗不委曲元慶七年記云主人大臣稱病不出客亭右大臣早到行事

今日准彼例同記云天慶二年正月四日詣太政大臣忠平所主公稱病不出客亭右大臣早到行事

大相不出之元日遣巡察等於三位已上家糺彈他司人集會其間事天饗所之始歟

〔大鏡太政大臣基經〕太政大臣基經のとへは長良中納言の三郎におはす略中御いへは堀川院

と閑院とにすませ給ひしをほり川院をばさるべき事のおりはれぐしきれうにせさせ給ひ

○中堀川院は地形のいといみじきなり大饗のをり殿ばらの御車のたちやうなどよ尊者の御

車は川よりひんがしにたてうしはみはしのひらきばしらにひきつなぎことかんだちめのくるまをば川より西にたてたるがめでたきをば尊者の御車のべちにことに見ゆる事はこと所はえ侍らぬものをやと見給ふるに略下